



くすのき



No. 32

H27年12月発行

◆東三河地区地域協働生徒指導「地域の集い」が開催されました◆

11月24日(火)の午後、アイプラザ豊橋で、主に東三河の中学校、高等学校の生徒指導担当の先生方と保護者約250名が参加して「地域の集い」が行われました。昨年度に引き続き、「スマホ・ケータイ 安心安全利用」をテーマに、講演会とパネルディスカッションが行われました。講演会では、(有)情報空間の榎本康宏氏から、ネット依存や、ネットいじめ、ネット詐欺など7つの問題点とそれらへの対応の仕方について講話がありました。親子で十分話し合い、

ルールを決めていくことの大切さを訴えられました。

また、パネルディスカッションでは、青少年センター所長の清水もパネラーとなり、小中学生と保護者を対象に行ったインターネット利用に関するアンケート結果の一部を報告し、そこから見えた問題点を伝え、保護者としての指導のあり方を提案しました。また、平松が中心となって4年前から実施している小中学生や保護者・教員・補導員を対象とした「出前講座」についても報告し、蒲郡で取り組んでいる安心利用啓発の取り組みの一部を参加者に伝えました。



◆十二月十日～一月十日は
青少年の非行・被害防止に取り組む市民運動(冬期)実施期間です◆

◆不登校・ひきこもり地域継続支援ネットワーク研修会◆



11月19日(金)の午後、豊川保健所主催で不登校、ひきこもりの支援者を対象に研修会が行われました。

知多市社会福祉協議会の河村康英氏からは、昨年9月、知多市民2000人を対象に行ったひきこもりに関するアンケートの結果について説明がありました。

675人の回答のうち、内閣府の定義によるひきこもりが1.04%(ひきこもり群A)。統合失調症や妊娠、家事・育児を理由にしたものはひきこもりの定義から外されているが、これらを理由とした者をひきこもり群Bとして集計すると1.62%見られました。ひきこもり群Aは男性が7割、ひきこもり期間7年以上が6割、40代が6割、母親との同居が6割で未婚者が多く、全員が自分はひきこもりだと思っていないとの結果が出ました。ひきこもり群Bは女性が8割、5年以上が5割、40代5割で主婦層が多く、自分がひきこもりだと思っていないのが6割という結果でした。自分がひきこもりだと思っていないので、相談しようという意欲がないのも当然の結果といえます。

これらの人は子どものころ、親のしつけが厳しく、我慢することが多かった、職業を親に決められた。自分の生活のことを干渉されたくないという共通点がありました。ひきこもり支援と子育て支援を絡めた対策が必要となってくるのかもしれない。



1月の補導予定

大塚班 22日(金)18:00 大塚公民館
三谷班 15日(金)18:00 三谷公民館
蒲郡班 8日(金)16:30 勤労福祉会館
中部班 15日(金)17:30 中央小学校
塩津班 15日(金)18:00 塩津公民館
形原班 15日(金)19:00 形原中(研修会)
西浦班 8日(金)17:20 西浦駅

よろしくお願ひします



◆編集後記◆ 例年に比べて暖かな11月でしたが、月末になり急に寒くなってきました。もう師走ですので当たり前の寒さなのですが、今までが暖かかっただけに、体にこたえます。補導員の

皆様には、これからはしばらく大変寒い中での補導活動となります。防寒をしっかりしていただき、体調を崩されないようお願いをします。次号は、新年を迎えてからとなります。皆様よいお年をお迎えください。

